

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和2年(2020年)

12-1月号

(通巻 191号)

2020年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ウソ
オスの喉が桃色で目立ちます。木の実が好きて、写真はモミジの実を食べに来たところです。

P1 ☀️ いきもの写真館
ウソ

P2 ☀️ センサーカメラの記録
2019年12月
/ 3
~2020年1月

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
日本毛織の工場跡地の帰化植物
ビロードモウズイカ
トゲミゲシ

P5 ☀️ くすのきのあるバス通りから
ヒキガエルとイモムシ

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
むずかしい！ヤモリのおうち

P7 ☀️ わたしの観察ノート
9~10月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



センサーカメラの記録

(2019年12月～2020年1月)

自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。（自然博物館のウェブサイトで動画の公開を始めました）



ルリビタキ

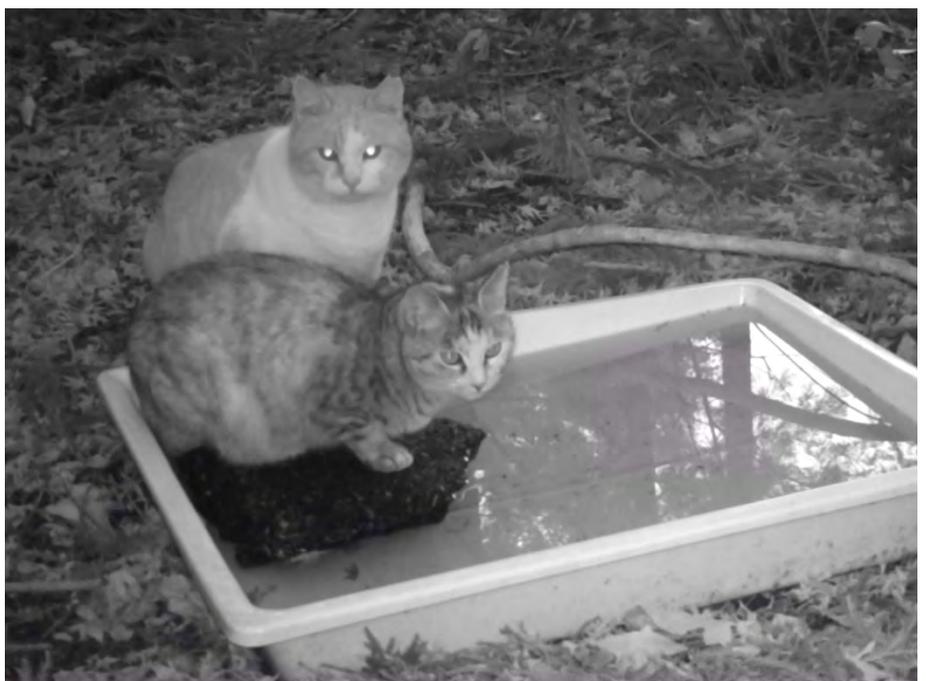
(2019年12月19日 12時8分)

ルリビタキが写る頻度は低く、2019年-2020年のシーズンでは3回しかなかった。公園側には鮮やかな青色のオスがひと冬いたのに、水場に来たのは、いわゆるメスタイプの個体だった。

ネコ

(2020年1月20日 16時57分)

ネコは時々写った。写真の2頭はつがい、何回か子猫を産み、その後、ボランティアさんの協力を得て、保護できた子猫は里親さんをお願いし、この2頭は増えない措置をした上で公園に戻った(左耳の先端がカットされているのが措置済みの印。桜の花びらみたいなのでサクラネコと呼ぶらしい)。1代限りという約束だが、禁止されている餌やりも後を絶たない。さまざまな野鳥が訪れる水場にネコも来るということは、不幸な遭遇もあり得る。ネコが自然公園にいるべきでないことは間違いない。(夜間赤外線撮影)





ノウサギ

(2019年12月5日 5時46分)

ノウサギは何か月に1回程度の頻度で写っていた。広い行動圏が予想される中、長田谷津は中心的生活場所ではないのかもしれない。市川市域では生息していること自体、奇跡に近いので、生存が確認されるたびにほっとする。(夜間赤外線撮影)

ヤマシギ

(2019年12月28日 8時40分)

2020年10月までの時点で、ヤマシギが写ったのは、この1回だけだった。広い長田谷津の中で、カメラの撮影範囲は小さな点にすぎない。水場は野鳥を呼び寄せているのでいろいろな種類が写るが、けもの道でヤマシギが写ったのは偶然でしかないだろう。カメラの前をせわしなく走り抜けて行った。



12月から1月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日)

哺乳類

アカネズミ:191214

タヌキ:191201,191202,191203,191204,191205,191206,191207,191208,191209,191212,191213,191214,191215,191216,191217,191218,191219,191220,191221,191223,191226,191227,191228,191229,191230,191231,200101,200102,200106,200108,200110,200111,200112,200113,200114,200115,200116,200118,200120,200122,200123,200124,200125,200126,200127,200128,200129,200130,200131

ネコ:191228,200120,200131

ノウサギ:191205,200112

ハクビシン:191202,191210

鳥類

ウグイス:191215,191220,200101

カケス:191214,191216,191218,191224,191225,191231,200107,200113,200117,200120

キジバト:191231,200102,200106,200107,200109,200116,200121,200131

シジュウカラ:200130

シロハラ:191203,191211,191215,191216,191217,191218,191219,191220,191221,191222,191224,191228,191231,200101,200103,200108,200112,200129

トラツグミ:191206,191218,191219,200102

ハシブトガラス:191220,200103,200105,200107,200113,200119,200121,200122,200124,200125,200127,200130

ヒヨドリ:191214,191215,191216,191217,191218,191219,191220,191224

ヤマシギ:191228 ルリビタキ:191219

いちかわの植物 30年

自然博物館の30年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

日本毛織の工場跡地の帰化植物

鬼高にある商業施設ニッケコルトンプラザの場所には、かつて毛織工場があり、工場が閉鎖された後は、しばらく空き地の時代が続きました。自然博物館の開館準備をしていたのはそのころで、何度か、専門の先生方と訪れました。目的は、帰化植物の調査です。

ここは、毛織工場だった時代に海外から羊毛を輸入していました。それらに付いていた植物のタネの一部は、工場の敷地にこぼれて芽生えました。見慣れない海外の植物が見られる場所だったのです。

ビロードモウズイカはヨーロッパ原産の植物で、タバコの葉のような大きな葉を広げ、鮮やかな黄色い花を咲かせます。当時は、総武線の車窓からもよく目に付きました。

トゲミゲシもヨーロッパ原産で、実にトゲがあるのが特徴のケシです。訪れたときはほとんどが実になっていましたが、一輪だけ、花を撮影することができました。

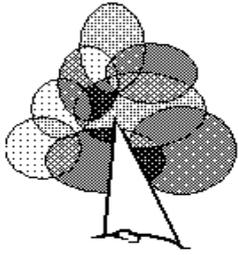
国際的な物流のなかで、物資とともに種子や小さな昆虫が移動するのは不可避です。現在は「外来生物」と呼ばれますが、当時は植物であれば「帰化植物」と呼ぶことが普通でした。そこには、ある程度その存在を受け入れる響きがありました。



ビロードモウズイカ(1986年6月6日)
わりと各地に帰化している。園芸植物のよう
に花壇で育てていることも。



トゲミゲシ(1987年5月7日)
画面、花の右後方にうっすらと実が写って
いる。トゲの存在がなんとなくわかる。



ヒキガエルとイモムシ

今年の4-5月号の時に解体予定だったお屋敷が更地になりました。たくさんのお木々と池がなくなりました。敷地がまだデコボコしている頃、「道路側の塀の際にカエルがいる」と出勤途中の娘から連絡がありました。早速駆けつけるとなかなか見つかりません。行ったり来たり、反対側も捜しました。予想していた大きさではなく手のひらより小さいサイズでした。自然博物館で暮らすことになりましたアズマヒキガエルです。

11月、自宅の駐車スペースにきれい

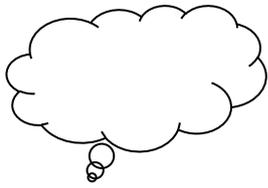
な黄緑色のスズメガの幼虫が歩いていました。車の出入りがあるので、ヤブカラシの葉の上に移動しました。今度は茶色いスズメガの幼虫がやはり同じあたりにいました。再び、ヤブカラシの上へ…ところが買い物から戻ると茶色がまたコンクリートの上を歩いているのです。ひょっとして、サナギになる場所を探していたのかも。自然博の方に尋ねると「両方とも、キイロスズメです。ヤブカラシではなくヤマイモとかトコロが食草」と。余計なお世話をしてしまいました。

(M. M.)

自然博物館の新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

館内を以下の通り変更して、開館しています

- 展示室の入口と出口を明示しました。
→これまでの自由導線から一方通行にしました。
- 体験コーナーは一部変更、お休みしています。
→顕微鏡での土の観察は現在ご利用いただけません。
→ヤドカリなど生き物に触れるコーナーはありません。
- 絵本コーナー、休憩コーナーをなくしました。
→ベンチやソファなど、座れる場所はありません。
動物園休憩スペースをご利用ください。
- 通路を広く確保しました。



展示室

No.35

飼育生物の話題



むずかしい！
ヤモリのおうち

ヤモリ（ニホンヤモリ）を漢字で書くと「家守」です。かつては木造住宅に必ずと言っていいほど住んでいて、「ヤモリがいる家は安心。家を守ってくれるから」という受け止め方をされました。この解釈のおかげで、ヤモリは人の身近な場所で生きることができたのでしょう。人間とペット以外の生物が家屋にいることを許さない考え方は、比較的新しい価値観のように思われます。

家を守ってくれるヤモリですが、博物館では飼育展示の「ヤモリのおうち」づくりに苦戦しています。垂直面も気にせずのぼり、飼育ケースの中でも立体的に行動できるので、「ケースにヤモリ」だけでも実際は問題ありません。ただ、飼育展示としてはあまりにそっけないので、しばらくは止まり木を入れて飼育、やっぱり隙間が好きなので「おうち」（隠れ家）も作ることにしました。

ここで問題になるのが、隠れ家なのにお客さんからは見えるようにしたいという矛盾です。隠れているヤモリとお客さんの目が合う程度の隠れ方ということです。写真は、試行錯誤を経てできあがったもの。当初の目的は達成しましたが、こんどはヤモリを見たことがない子どもたちには、全身を見せたくになります・・・

これは、動物園や水族館などについてまわる永遠の課題ですね。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ヒヨドリバナの花の蜜をダイミョウセセリが吸っていました(9/4)。

稲村優一(自然博物館)

- ・そろそろお昼という時間に、フクロウが谷を横切っていました(9/16)。羽音が全くしないので、人間は真上を通りすぎても気が付きませんが、林の中では小鳥が騒がしく鳴いていました。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・草が茂り放題のエコアップ池は、コバネイナゴの楽園のようでした(9/26)。イネに近縁の野草・サヤヌカグサの群落周りでよく見られました。

金子謙一(自然博物館)

- ・大池(噴水池)の横にアオバトの若いオスがいました(10/22)。地上に降りて餌を探していました。長田谷津では珍しい記録です。
- ・斜面林でシメが観察できました(10/30)。渡ってきたばかりのようです。長田谷津で冬を越す冬鳥が続々と揃ってきました。

以上 稲村優一

◆中山より

- ・水泳がなかった小学校のプールは、水が緑色で「ため池」のようでした。コノシメトンボが雌雄つながって産卵していました(10/21)。すごいね、と子どもたちに話しましたが、水泳がなかったせい表情は複雑でした。

金子謙一

◆国府台緑地より

- ・今年(博物館だより)2-3月号で知ったコウヤボウキを見に行ったところ、ちょうど花の見ごろでした(10/30)。となりにムラサキシキブの実がなっていました。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆三番瀬より

- ・ミヤコドリが干潟に降りてきていました(9/17)。三番瀬ではほぼ1年中見ることができそうですが、三番瀬以外ではなかなか見られない種類です。警戒心が強く、近くで見るとは難しいですが、白黒の身体に真っ赤な嘴は遠くからでもよく目立ちます。

◆江戸川放水路より

- ・江戸川放水路の干潟にシロチドリの群れ(14個体)が降りていました(10/7)。干潟にカニやゴカイなどの小動物がいれば、それを狙ってシギ・チドリが集まります。

以上 稲村優一

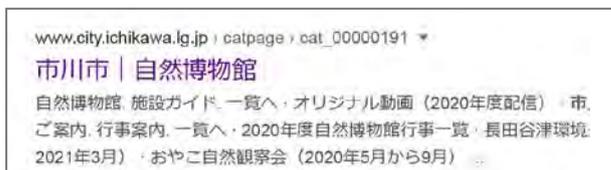
- ・トビハゼの稚魚の調査をしました(10/7)。だいぶ大きくなっていて3cmを超える体長の稚魚が多くいましたが、混じって体長1.5cmくらいの稚魚もいました。

金子謙一

猛暑の夏から、9月半ばになると急に肌寒い雨の日が多くなりました。10月に入ると暖房が欲しい日もありました。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を ご覧になってみてください

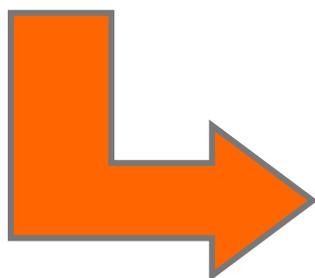
- 検索サイトで「市川自然博物館」を検索
- 「市川市 | 自然博物館」と表示されたページを開く



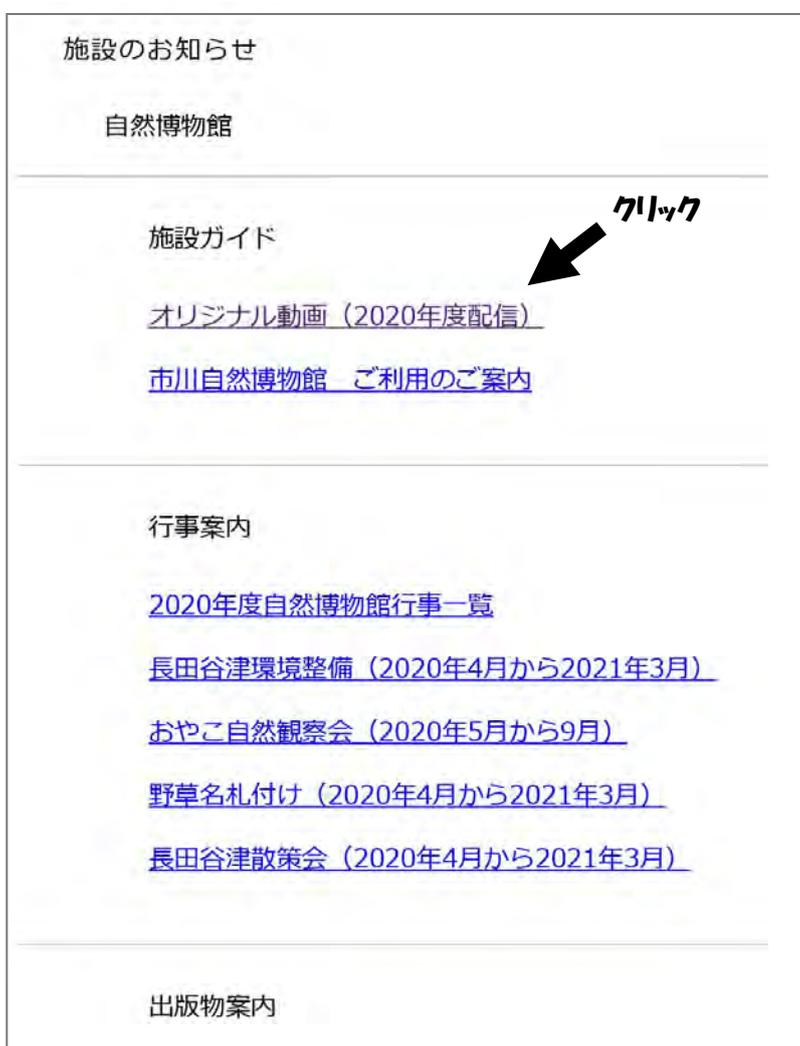
- 目次画面が出てくるので、それぞれの項目をクリックして
各ページをご覧ください



ページ全体のイメージ



拡大しました



第33巻 第5号 (通巻第191号)

令和2年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047 (339) 0477